

この人に聞く 菊地一郎さん

佐渡に生きて、 平和と民主主義を希求

プロフィール

1935年 佐渡郡羽茂村(佐渡市羽茂大橋)に
生れる

1959年 法政大学経済学部卒業

1959年～1996年 新潟県立高等学校教員

1996年 定年退職



編 集 部

「佐渡九条の会」と

「羽茂高校将来構想委員会」

昨日は憲法施行七〇周年、私は平和と民主主義を護るため「佐渡九条の会」の一員として働いています。

また、地元とのかかわりは、長年勤務した母校、羽茂高校の「羽茂高校将来構想委員会」の委員として、将来の発展について取り組んでいます。

県内二〇市の内、一人当たりの所得や財政力指数が最も低く、毎年、一〇〇〇人の人口減少が進んでいる佐渡。この現状をふまえての「委員会」で、一つの原案を作ること。それを今後、どう地域、県、市への働きかけ、発展に結びつけるか、大きな課題になります。佐渡は古くから芸能が盛んであった。今も三十余の能舞台がある。また「鼓童」は世界で活躍している。そこへ羽茂高校郷土芸能部が全国大会で優勝した。だから芸能科か…。農業科を復活したら…。(農業科を普通科に変更した経緯がある)。佐渡の観光産業の発展のため、数力国語を教える観光科にしたら県内はもちろん全国的にも珍しい…。などなど。高校の将来を考え、いろいろ意見が出ています。これをまとめて一本化でき

るか。そして、その後の運動、これからが大仕事です。

佐渡南部唯一つの羽茂高校

佐渡に中等学校が、初めて出来たのは一八九六（明治二九）年。佐渡尋常中学校が、全町村の組合立で国仲の河原田町に創立されます。それ以降、大正、昭和初期までに四校の中等学校が設立されますが、国仲平野と相川地区で、佐渡南部の設立はありませんでした。一九三〇年代初期、羽茂小学校の卒業生二〇〇人前後のうち中等学校に進学できた児童は、二、三人です。

国仲の学校までは三〇〜四〇kmと遠くて、下宿してまでの進学は経済的余裕がなかったからです。

世界恐慌の波は、当然佐渡にもやってきました。羽茂村長であり〇大味噌会社社長であった本間瀬平は、不況の中での人づくりこそ大切と、厳しい村財政にもかかわらず、羽茂専修農学校設立の基本金積み立てを始めます。村議会でも農学校については議論百出でもめたそうですが、最後は全会一致で設立を決めています。

村予算だけでは足りず、特別寄付を集め、更に集落ごとに割り当てる方式で村民からの寄付金をもって設立にこぎつけたのです。羽茂には大地主がいなく貧富

の差が少ない地で、まとまりがよかったと言えます。

一九三四（昭和九）年、秋に羽茂専修農学校は創立されます。村誌によると三六年度の教育関係費は村歳出の五七％うち農学校費が二・三％も含まれています。羽茂農学校創立によって、羽茂小学校の卒業生の六割強が中等学校に進学できるようになったのです。

このような創立の歴史の“おいらの学校”羽茂高校ゆえに、将来をみんなで考え発展させたいのです。

生い立ち — 父の戦死

私は、一九三五年、佐渡郡羽茂村で生まれました。

三世代家族で、農業の傍ら漁業で暮らす幸せな生活でした。しかし世の中は急速に太平洋戦争に向かつて進みます。私は真珠湾攻撃から四ヶ月後、国民学校（小学校）へ入学。大本営は国民には知らせなかったが、開戦一年後から負け戦が始まっていました。

四四年、父に召集令状が来ました。祖父は、刀剣から仏壇の燭台など金属類は供出し我が子の武運長久を祈り、母と祖母は千人針を作り、産土神に裸足でお百度参りをして父の無事帰還を祈りました。しかし父は、四五年敗戦の二週間前にフィリピン・ルソン島で戦死

していました。翌年三月、戦死の公報が通知され、紙切れ一枚が入った遺骨箱が届きました。わが家の葬儀と羽茂村の合同葬儀が行われ、弟妹はきれいな着物を着せてもらい、大勢の弔問客に喜んで飛び回り人々の涙を誘ったものです。母は三〇歳で戦争未亡人になり、三人の子供の将来を考え涙も出なかつたそうです。以降、祖父はお盆の精霊棚を満足に作らなくなり、よく信心（迷信）深い祖母に叱られていました。

大黒柱を失った我が家は、生活が厳しく母は小柄の体で農作業の合間に“ちようもち”（仲仕）や“綱打ち”にさえ出ていました。

国仲への中等学校への進学をあきらめていた私は学制改革のお陰で四八年、地元の新制中学に進学し、施行されたばかりの平和憲法を学びました。父をうしなひ、戦後の貧しい生活の中で、世界に先駆けての第九条、戦争放棄、戦力不保持は明るい希望をあたえてくれました。しかし朝鮮戦争が勃発すると直ぐ警察予備隊ができ雲行きがあやしくなつてゆきます。

新制高校、大学へ

中学の隣の農学校が新制羽茂高校になりました。私

は五一年入学しました。片親だったため担任は奨学金を進めてくれ、お陰で本が買え嬉しかった思い出があります。社会科に興味を持ち、よく理解できないながら『共産党宣言』などを読んだのはこの頃でした。

友達の進学が羨ましく、一年間、建設会社で働きわずかな貯金をもつて進学のため東京に出ました。祖父も私の堅い意思を理解し、先祖伝来の田畑を売つて協力してくれました。今、祖父の英断に感謝しています。

祖父は佐渡尋常中等学校ができる以前、佐渡に二校しかなかつた尋常高等小学校（高等科）に下宿して学び、漢文が読め、書をよくした人でした。村会議員や、漁業協同組合長を長く務めました。それだけに向学心に燃える孫の志を認めてくれたのだと思います。

一九五五年からの学生生活はまさに苦学。神仏のお加護では腹は膨れないのです。品川から浅草まで、自転車で文房具を運ぶアルバイトをした時など、食堂で食べる金がなく、雨のため日比谷公園のトイレでコッペパンをかじつて凌いだこともありました。

大学では、科学的社会主義に出会い、人生の迷いから、一つの方向を見つけた思いでした。戦中、その学問・思想ゆえに弾圧され獄死した教授の話。同じ理由

で大学を追われ戦後返り咲いた教授の講義に接し、ファシズムの恐ろしさを知り、言論の自由、平等、平和の大切さを知りました。

高校教員になって

一九五九年、大学を卒業し六日町高校五日町分校に赴任しました。下宿の同僚たちが、沢山の書籍を持っているのに驚きました。学生時代は、神田の古本屋街で欲しいなと思いつながら買えないで、後日また売れ残っている本を見てホッとした貧乏学生でしたから。

教員になり安給料でも、本は買いました。本屋の主人が「警察が、先生が買う本を調べている」と教えてくれました。私が革新団体の結成に関わったと誤った捜査？をしていたようでした。安倍首相は「共謀罪」法は組織的犯罪集団、テロリストに限られ、一般人は対象外などと言つて国会を通そうとしています。が、「共謀罪」法が無いときでも、庶民の監視はあるのです。

三年後に両津高校に転動したその時も島内の生活指導の会議で「今度、過激な奴が来た」と話題になった。自重するように」と佐渡農高に勤める叔父に言われま

した。が私はこわれるまま労働組合の集会の講演や講師をつとめました。六五年、羽茂高校に赴任。社会問題研究会を結成したり、地区労の講師、憲法記念日の講演会などに熱心なため、保守的な地元の住民には不評でした。「御禮地（屋号）のセンセイはアカだ」と排斥の動きがあった、と後から聞きました。一緒に暮らしていた祖父の耳に届いた筈だが、死ぬまで一言も触れず孫を信じて見守ってくれたことに感謝しています。

ある日校長に「町が誘致した企業にケチをつけた」と町長が怒っている謝りに行くようにと言われ、私は悪いことはしていないと突っぱねました。その企業を見学したとき、ミスをした労働者が、休憩時間・退社時間返上のサービス残業で製品の手直しをさせられていたことを指摘し、仮に自主的にやっても、労働基準法違反になる恐れがあると授業で触れたことが問題になったのです。

羽茂高校では政治・経済を教えて、長く勤めました。が、同一校に一〇年以上は異動、と組合と県の申し合わせに従い七五年、新発田商工高校豊浦分校に転動しました。祖父母は既に亡くなり、老齡の母一人を佐渡

に残したまま新潟市松浜に住まいを移しました。この分校では社会科の五科目を一人で教えるなど大変苦労しました。五年後、佐渡女子高に転勤、さらに五年後再び羽茂高校へ転勤、九六年に退職しました。

前述のように若い頃から、市民集会や労働組合で恥知らずの講師をやつてきました。今、考えると冷や汗が出る思いです。しかし大内兵衛先生ではないが民主社会建設の道は「譬えば地を平かするが如し、一箇を覆すと雖も、進むは吾が往くなり」（論語）です。

羽茂高校の教育憲章の制定

一九六八年、安富校長が赴任した時、キチツとした教育目標を徹底的に論議して決めたいとのこと。その時どうしてか若い私に原案作成が託されました。前年、中央教育審議会からいわゆる「期待される人間像」が答申され復古調に加え、能力主義の教育政策がジワリと現場に降りてきている頃でした。

私は職員会議に次の文言で提案したのです。

真理と平和を希求し、進取の気象にとんだ青年を育成する。

勤労と責任を重んじ、心身ともに健康な青年を育成

する。

個人の尊厳を重んじ、民主社会建設に貢献する青年を育成する。

論議は、活発に交わされましたが、過激な文言でなかったためか修正はなく決まりました。この新しく制定された目標は羽茂高校の教育指針となつて今日に至っています。私が退職して六年過ぎた二〇〇二年秋、教育憲章碑として校舎前に建立されました。

二〇〇四年、県教委は創立七〇周年記念の式典の祝辞で、この教育憲章について「連綿と受け継がれていることを大変うれしく思います」と。また創立八〇周年記念にも同じ趣旨の祝辞が述べられています。

教育法研究会のこと

一九八〇年、日本教育法学会の会員であつた私に東京から「全国高等学校教育法研究会」（高法研）結成の呼びかけがあり、新宿高校で結成大会。常任委員となりました。新潟高法研も多くの人々の協力をえて結成。八七年、第7回新潟大会に日本教育法学会兼子仁会長の講演を願い、県内はもとより全国から多数の報告者、参加者を得て盛況のうちに終えることができた

した。

教科書検定問題、君が代・日の丸問題、管理職と職員会議の関係などなど。また成績評価、懲戒規定、原級留置、成績評価の基準など県内の高校の現状を総合的に検討。民主教育について認識していきました。

年一回の全国大回は民主教育実践のため今も引き継がれています。私は退職した今も全国の仲間と交流しています。この高法研（今、教法研）が民主教育に少しは役に立っただろう…と自負しています。

「羽茂」の地名を残した運動

市町村合併をして佐渡一市とするとき羽茂町長が議会に「羽茂」の地名を無くし、字名のみ提案を進めていることを知りました。

私は七二一（養老五）年からの歴史ある地名を、羽茂地区すべてに残そうと会を結成。〇二年から足掛け3年の運動をしました。町民大会、署名運動、議会傍聴、文書作成、チラシ作り、新聞折り込、カンパ集め。また私は事務局長として先頭にたつて町長、町議会、市になってからは市長、市議会議員に繰り返し陳情を続けました。その成果、二〇〇五年一月、すべての地

区に「羽茂」は復活、県報に告示されました。

憲法九条を護る

私は半生を振り返り、戦争は幸せな我が家を打ち壊したと思っています。今も、出征した父からの手紙を讀むと妻子への思いやりに涙ぐみます。また寝る暇もなく働く母の苦勞を見えたから、戦争さえなければ…といつも思っていました。大学生になり父の戦死から一一年過ぎ、やつと母の希望、靖国神社参拝に案内できました。この時の母の心境はどうだったのだろう。

安倍首相は解釈改憲どころか憲法九条の改悪を公言しています。私の残された人生、「佐渡九条の会」の一員として憲法九条を護るために戦います。たとえ「共謀罪」法が成立したとしても平和、自由、平等のために戦います。私にとつてそれが戦後生きて来た証です。

（文責：吉田武雄・所員）